

2017 実践教育研究発表会

2017. 8. 24～8. 26

大会テーマ 「ものづくり・ひとづくり そして未来へ」

2017年度の実践教育研究発表会（東京大会）が8月24日から8月26日までの日程で、東京都小平市の職業能力開発総合大学校キャンパス（以下、職業大という）で厚生労働省、高齢・障害・求職者雇用支援機構、小平市、小平商工会議所の後援で開催されました。大会は「ものづくり・ひとづくり そして未来へ」を大会テーマに掲げ、大会運営委員会および実行委員会によりいろいろな企画が準備されました。3日間の会期中、延べ640名余りの参加者により発表や討議、意見交換、交流が行われました。

3系共同企画である特別講演では、「TOKYO WOOD 普及協会の取り組み—究極の地産地消への挑戦—」というテーマで株式会社森未来代表取締役社長の浅野純平氏の講演が行われました。

講演では、地元（東京都多摩地域）の木を活用していく取り組み（挑戦）において、木を植えて育て住宅建築などの材料として活用していくには、非常に長い期間（約60年）と手間がかかるが、現在その価格が非常に安い（一本が約1000円）ことなど様々な問題や課題があるが、色々な角度から取り組みすることにより普及効果を上げていることが話されました。



発表会会場（職業大）



特別講演の様子



一般講演の様子

各専門部の企画もそれぞれ行われました。機械系企画では、「今後の機械系活動を考える『温故知新』」というテーマで座談会が行われました。4名のパネラーの方々からこれまでの協会の経緯や取り組みについての説明の後、これからの協会発展に向けての意見交換が行われました。電気・電子・情報系では、「ワイヤレスネットワークの最新動向」というテーマで千葉工業大学教授の森信一郎氏の講演会、また株式会社ブリジストン「ブリジストンTODAY」展示館の見学会が行われました。建築・デザイン系では「木造の架構と構造設計」というテーマでシンポジウムが行われました。

協会設立30周年記念イベントとして行われたコマ大戦では、全国から18校の参加があり、対戦中（対戦両者のコマが動いている）の静けさと対戦後の歓声の中での熱戦が繰り広げられました。

一般講演では81件（機械系27件、電気・電子・情報系21件、建築・デザイン系12件、能力開発分科会21件）の発表がありました。今回も昨年と同様女性の発表が多くみられました。

企業展示では全国から30ブースの出展があり、教育・訓練の教材や関連製品などの展示が行われました。

交流会は、職業大近くのブリジストン会館で開かれ、全国の教育訓練施設から来られた会員と賛助会員、来賓、発表会関係者の交流が和やかに行われました。



コマ大戦の様子



企業展示会場の様子



交流会の様子